

大基委大評第 150 号
平成 26 年 3 月 17 日

長崎県立大学
学長 太田 博道 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「完成報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「完成報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「完成報告書検討結果（長崎県立大学国際情報学研究科）」

以上



〈 完成報告書検討結果（長崎県立大学国際情報学研究科） 〉

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学国際情報学研究科は、評価資料を提出する 4 月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1 年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該研究科の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、同研究科は「国際性、学際性、先端性を重視した教育研究を実践し、国際・地域社会や企業などで中心的・指導的役割を担える高度な専門知識を持った人材を育成すること」を目的とし、それに基づき教育・研究活動を行っていることが認められる。この目的を達成するため、同研究科では国際交流学専攻と情報メディア学専攻の 2 専攻を設置し、各専攻内には研究能力および高度な専門性を要する職業等に必要な能力を養うことができるよう、2 領域を設定している。学際性のある教育・研究を目指していることから、所属専攻の必修科目以外は他の専攻・領域の科目を履修できる教育課程を編成しており、履修指導については 1 年次に指導教員を決め、学生の修士論文のテーマを念頭において実施している。

教育・研究指導については、主査と副査の指導教員が連携を図りながら、学生の学問知識などに応じて適切に行われている。修士論文作成と学位審査・学位授与までの説明、スケジュールや学位論文の評価方法・基準については、『修士論文作成および提出の手引き』および『大学院学生便覧』等に明示されており、シラバスの整備、成績評価基準の明示等は相応に実施されている。また、社会人の受け入れに際しては、昼夜開講制度や長期履修制度などによる配慮がなされている。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、授業アンケートの実施とともに研究科独自の研修会を設けており、教員の資質向上や授業改善に向けて、おおむね適切に実施されている。

定員管理、学位授与状況、教員組織についてはおおむね適切である。

以上のことから、目標はおおむね達成されていると判断される。

[2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以 上